

安曇野市

令和5年度地域計画策定に伴う農地に関する
意向調査結果（土地所有者向け）

14 地区別比較

安曇野市農林部農政課

安曇野市農業委員会事務局

調査の概要

1 調査の目的

地域計画の策定にあたり土地所有者の意向を確認し、計画に反映することを目的とする

2 調査の概要

1) 調査対象者

令和5年7月末時点で安曇野市農業委員会の農地台帳に記載されている地権者のうち、500㎡以上の農地を所有している世帯の代表者

2) 調査方法

令和5年10月1日から10月30日を回答期間とし、郵送により調査書を配布し、返信用封筒により回収

3) 回収結果

配布票数：9,804件/回収票数5,661件/回収率57.7%

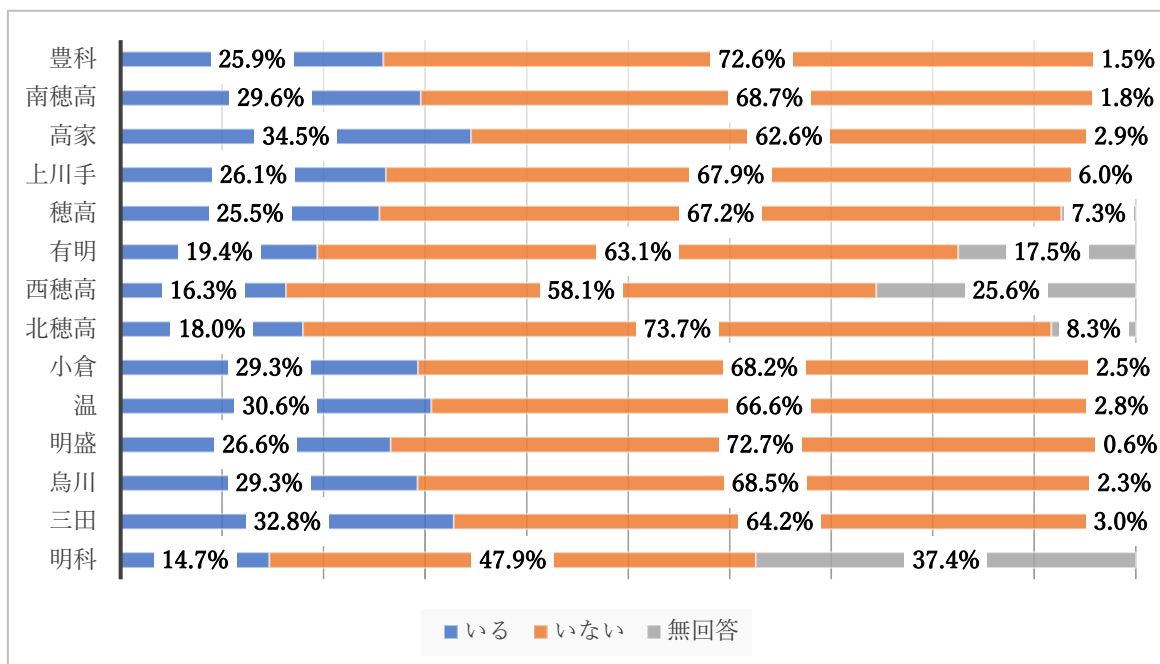
(人・農地プラン毎の回答率)

豊科地区：62.8%、南穂高地区：60.0%、高家地区：59.7%、上川手地区：60.9%、穂高地区：58.6%、有明地区：56.0%、西穂高地区：58.9%、北穂高地区：59.6%、小倉地区：54.6%、温地区：54.0%、明盛地区：59.5%、烏川地区：58.4%、三田地区：59.8%、明科地区：54.6%

4) 集計上の留意点

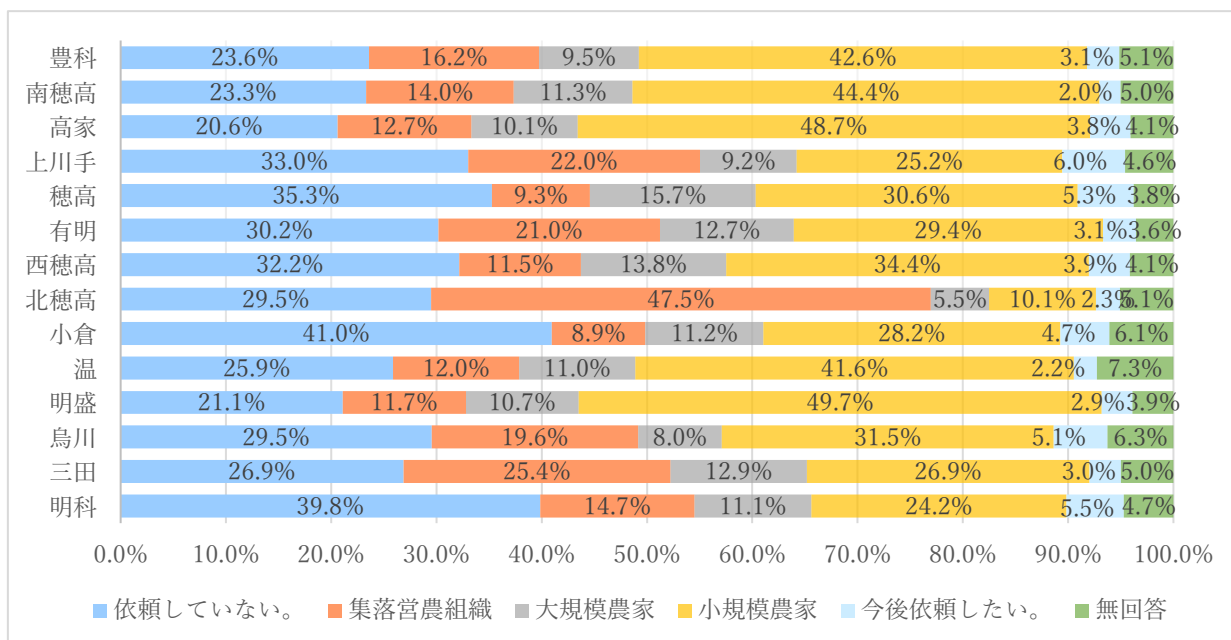
- ① 原則として、地区ごとの比較を行いたい設問では、帯グラフを用いました。
- ② 回答不要、複数回答となる設問については、無回答を含めずに集計しています。
- ③ 視認性を確保するため、一部回答率（割合）の記載を省略しています。
- ④ 回答率は小数点第二位を四捨五入して小数点第一位まで表記しました。そのため合計が100%とならない場合があります。
- ⑤ 複数回答では、回答総数を100（%ベース）として、それぞれの回答数の割合を百分率で示してあります。したがって割合の合計は100%になりません。

問1 農業後継者はいらっしゃいますか。(総数：5,661)



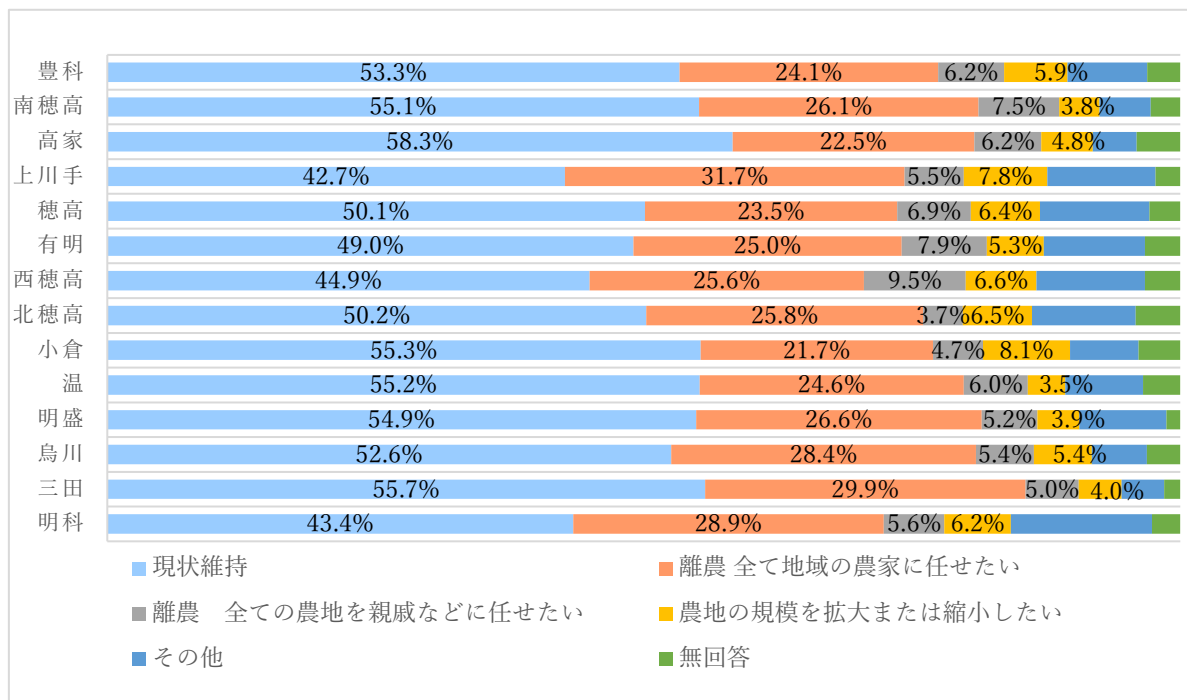
「後継者がいる」の割合は高家地区で最も高く 34.5%、次いで三田地区で 32.8%であった。「後継者がいない」の割合は北穂高地区で最も高く 73.7%、次いで明盛地区で 72.7%である。無回答の割合は明科地区、西穂高地区、有明地区で 15%以上と高い結果であった。

問2 他の農家へ農作業（一部、全部）を依頼していますか。(総数：5,661)



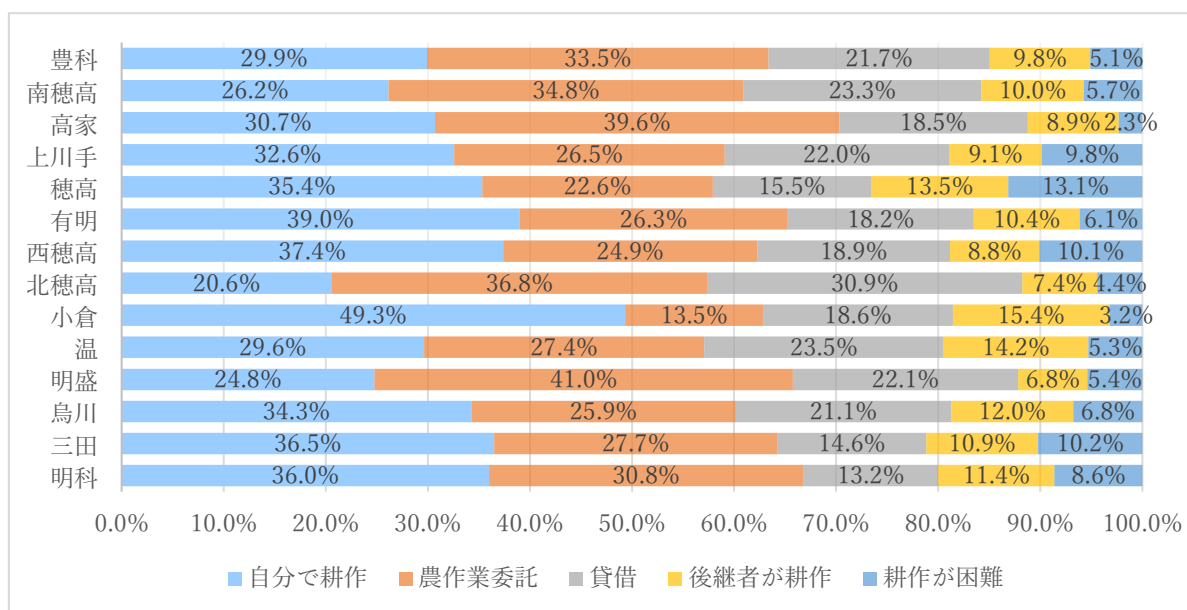
依頼をしていない、親戚等小規模な農家へ依頼していると回答した地区が多かった。北穂高区では集落営農組織へ依頼している割合が 47.5%と他地区より高い傾向にあった。

問3 所有している農地を今後どのようにお考えですか。(総数：5,661)



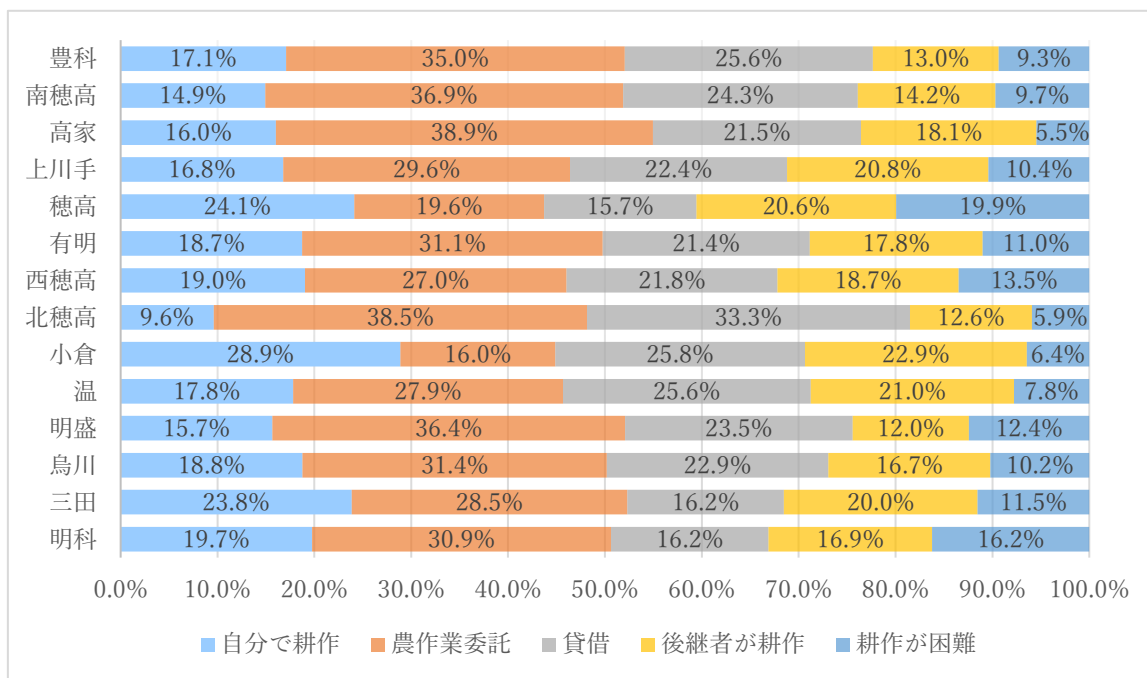
全ての地区で現状維持が最も多く、離農予定の方は地域の農家に農地を任せたいと考えている方が多かった。離農予定の方の割合は上川手地区で37.2%、次いで三田地区で34.8%、明科地区で34.6%の順に高かった。

問4-1 5年後の耕作状況は、それぞれどのような見込みですか。(総数：3,767)



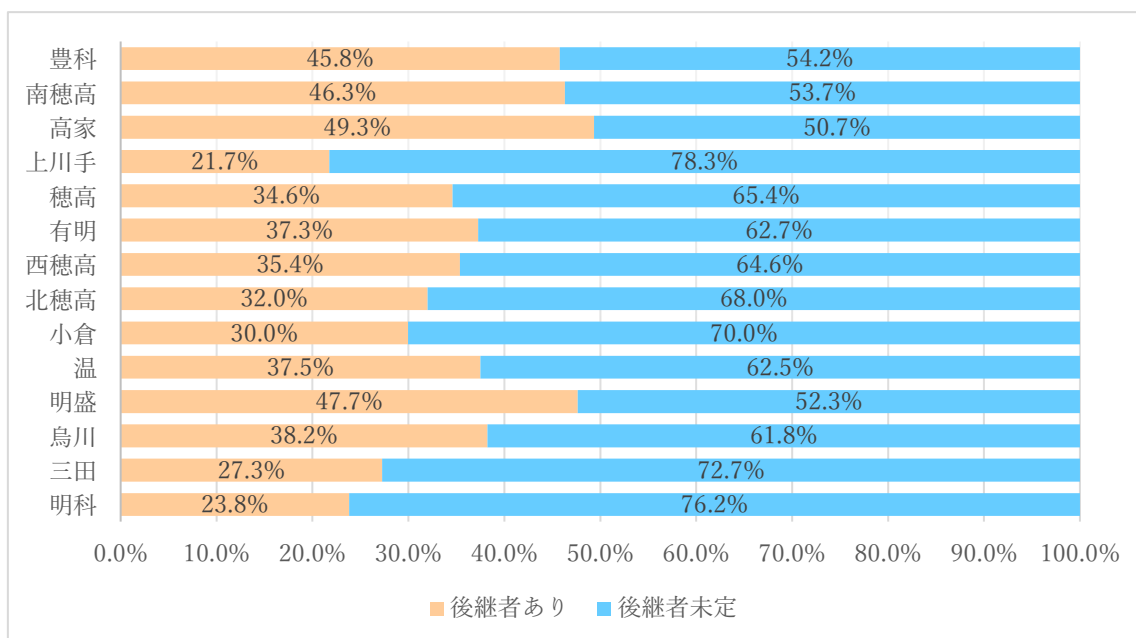
「5年後の耕作が困難」と回答が多かったのは穂高地区で13.1%と高く、次いで三田地区で10.2%、西穂高地区で10.1%となった。

問4-2 10年後の耕作状況は、それぞれどのような見込みですか。(総数：3,640)



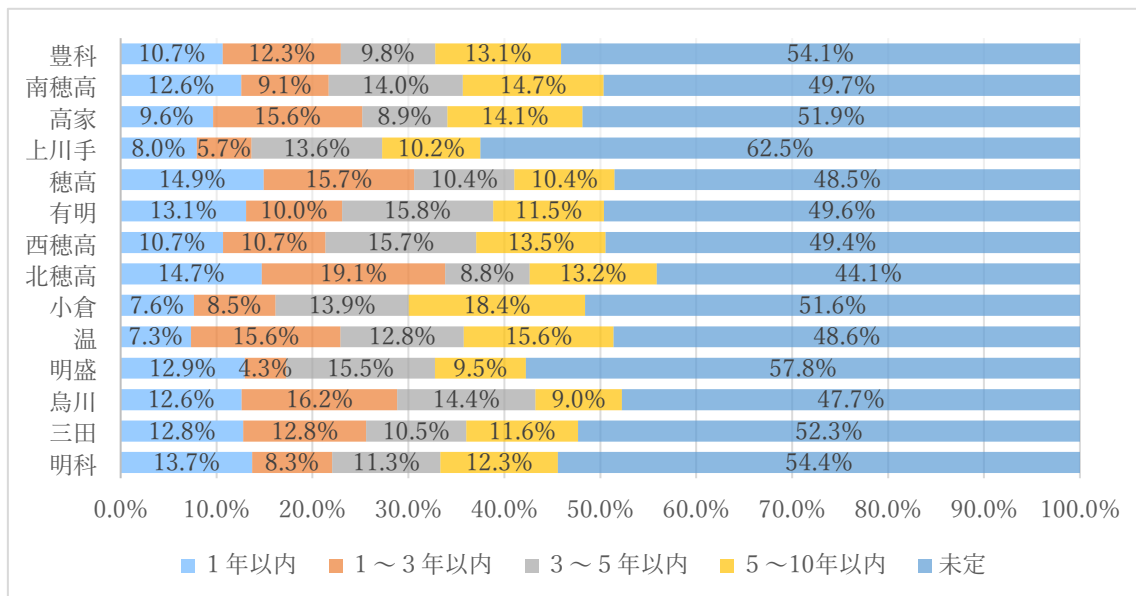
10年後に耕作が困難と回答した割合は穂高地区で19.9%と最も高く、明科地区が16.2%と高かった。

問5-1 離農して農地を任せる農家が決まっているか。(離農予定者のみ)(総数：2,181)



離農予定者のうち、後継者が決まっていない割合が最も高かったのは上川手地区で78.3%、次いで明科地区で76.2%となった。すべての地区で半数以上の方が後継者未定と回答があった。

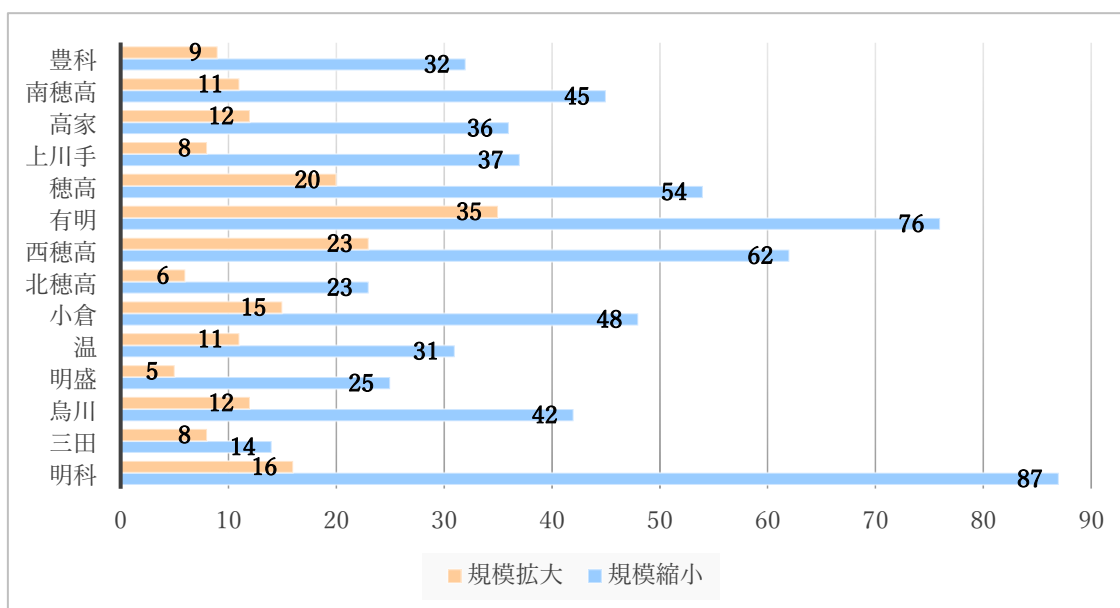
問5-2 離農時期について（離農予定者のみ）（総数：1977）



離農時期については、全ての地区で「未定」が最も多かった。一方、「1年以内」との回答1割程度あった。3年以内に離農予定との回答は北穂高地区で計33.8%と最も多く、次いで穂高地区で30.6%となった。

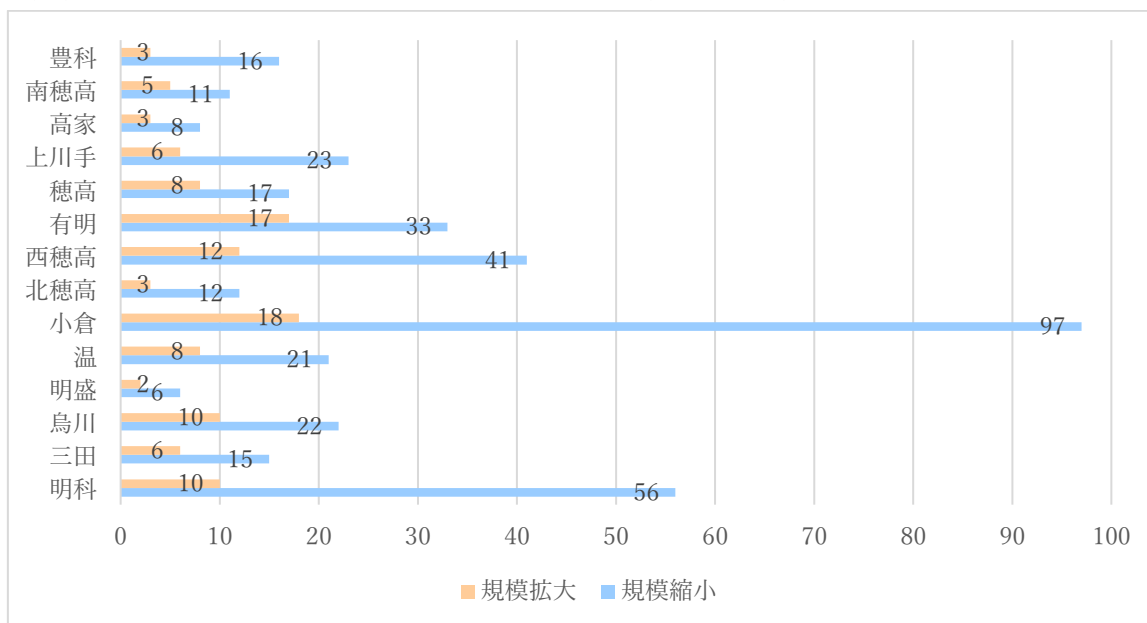
問6 今後、農地の規模をどのくらい「拡大」又は「縮小」したいですか。また、農地中間管理機構から農地を借受希望はありますか、

(1) 地目・田で規模拡大・縮小希望件数の比較（総数：803）



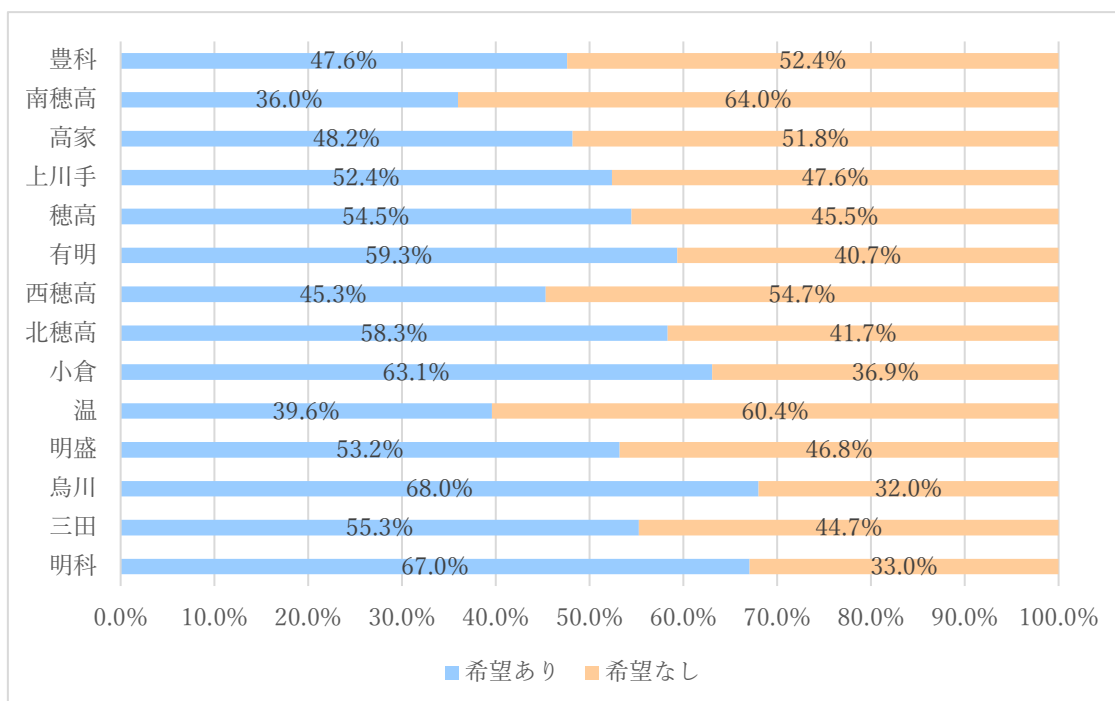
すべての地区で規模拡大件数を規模縮小件数が上回った。規模縮小件数は明科地区で87件と最も多く、次いで有明地区の76件であった。

(2) 地目・畑で規模拡大・縮小希望件数の比較 (総数：489)



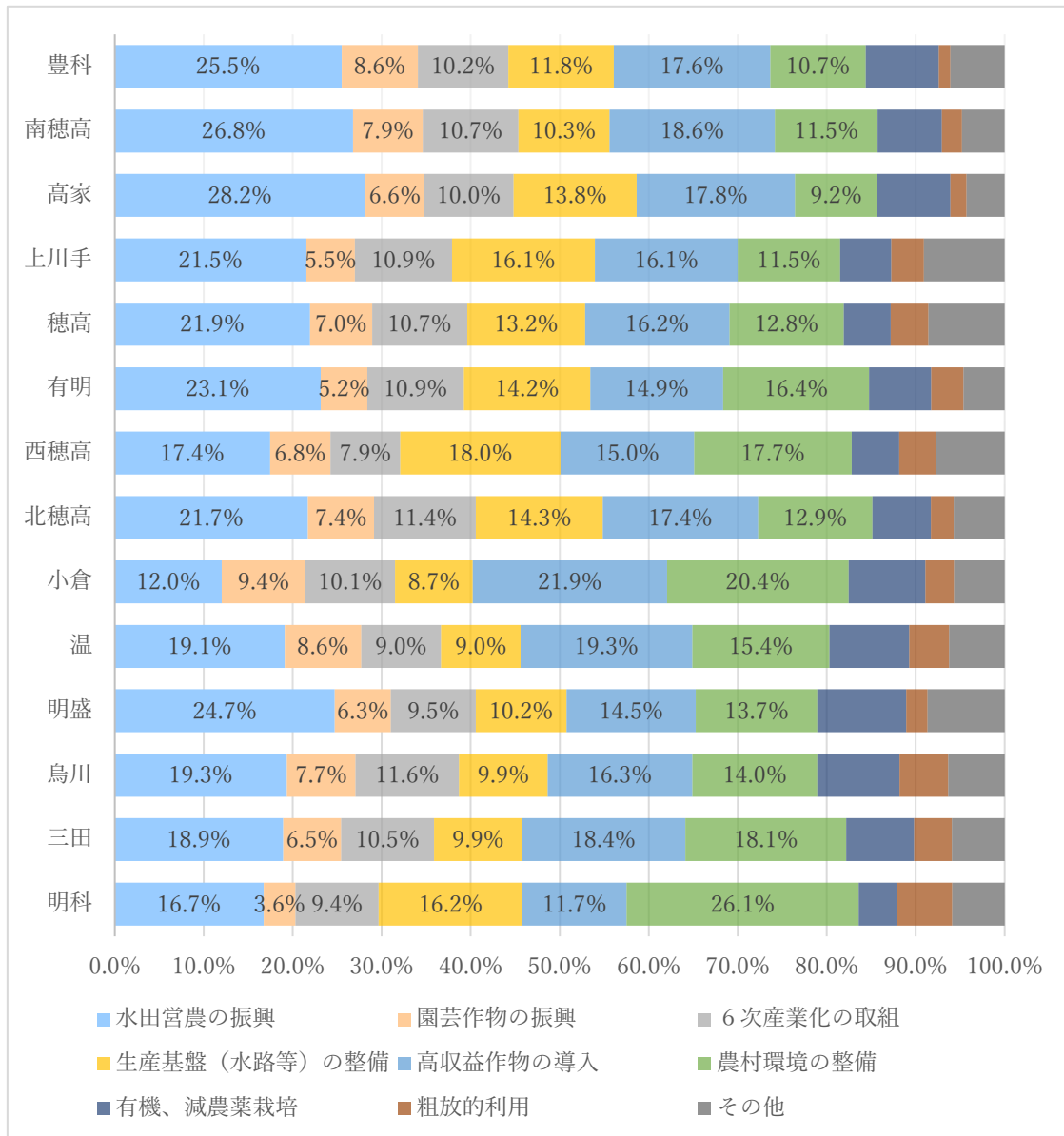
畑も田と同様にすべての地区で規模拡大件数を規模縮小件数が上回った。最も多いのは小倉地区で97件であった。

(3) 農地中間管理機構からの借受又は貸付希望について (総数：1,376)



農地中間管理機構からの借受、貸付希望は烏川地区が68.0%と最も高く、次いで明科地区が67.0%であった。最も低かったのは南穂高地区で36.0%、次いで温地区で39.6%であった。

問7 地域の農業を維持するために、今後必要な取り組みについて（複数回答可）



地区毎差があるが、「水田営農の振興」、「高収益作物の導入」、「農村環境の整備（鳥獣被害の防止、遊休農地の再生）」が上記を占める結果となった。